



『光と風と地域とともに』 認知症ケアの取り組み ～グループホーム～



グループホームご利用の方々です



本日は小学生の方が来られ、楽しい一時です

ういえば、おさ
んは昨夜遅く
までテレビを
見ていたので、
今日は9時頃
までお休みか
な？そんなこ
とを考えなが
ら朝食の準備
が始まります。
認知症によ
る記憶や認識
の障害、それに
伴う不安や孤

今回は、当館の認知症
ケアの取り組みとして、
グループホームを紹
介します。
私たちのグループホー
ムは認知症対応型グルー
プホームと呼ばれます。
その目的はたとえ認知症
になっても、入居者一人
ひとりの個性と生活リス
ムを尊重し、スタッフと
入居者とのコミュニケー
ションを大切にしたいケ
アを通じ共同生活の中で

分の役割を發揮させて生
活の意欲を引き出して、
その人らしい暮らしを継
続できるように支援するこ
とにあります。また、地域
に溶け込んだ普通の生活
を提供することでもあり
ます。
朝6時30分頃、私たち
の仕事はまだ誰もいない
食堂でコーヒーマーカー
のスイッチを入れること
から始まります。柔らかな
秋の日差しが射し込む

食堂を香ばしいコーヒー
の香りが満たしていき、
やがてその香りが目覚ま
しだったかのように入居
者の方々が食堂へいらっ
しゃいます。Tさんはい
つも通り朝一番に、Iさ
んは着替えにたつぷり時
間をかけて……。グルー
プホームでは特に朝食の
時間は決まっています。皆
さん思いの時間、時間に
起き、お好きな時間に朝
食を召し上がります。(そ



第39号
発行
平成20年11月9日

祥雲館

社会福祉法人 桃林会

〒563-0101
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1

TEL:072-733-2301
FAX:072-733-2303



敬老の日



当館にお住まいの橋本竹野さんは、明治38年生まれの103歳です。

9月9日には、日下町長(当時)が長寿のお祝いに橋本さんを訪ねてくださり、歓談のひとときを過ごされました。



独な気持ちは高齢者お一人お一人によって違いがあります。その気持ちに寄り添い、家庭的な雰囲気の中、安心して充実した毎日を過ごしてほしい、その想いを基に定員9名という少人数で私たちのグループホームは今年8月末にスタートしました。当初、1名の入居から始まり一ヶ月がたち、今では、7名の方が生活されています。

グループホームでの生活はまだ始まったばかりです。入居された方の中にはまだ新しい環境と生活に對してとまどい、夕方になると必ず「そろそろお暇させていただきます。」と言われる方や「私はいつまでここに泊まればいいのか?」と聞かれる方もいらっしゃいます。そんな時には、気分を変えていただくために一緒にお散歩に出掛けることもあります。でも、私たちはこのグループホームがその方たちにとって家族の待っている家庭になるようにとの願いを込めて、散歩から帰られると「お帰りなさい。」とお迎えします。いつか、私たちが「お帰りなさい。」と迎えていただけるように。



どうですか!?

職員も始めての人も多かったのですが、一緒に頑張りました

たくさん作りましたで〜



こんなんできました!

9月15日(月)は「敬老の日」でしたが、吉川施設では9月24日(水)敬老会を行いました。今回は職員も交え、バルーンアートに挑戦しました。

敬老会

委員会だより

今回は安全衛生委員会です。

祥雲館には、加齢によって抵抗力の弱いご利用者もおられ、そんな方々が集団で生活する場でもあります。主な活動は、皆様の感染症の予防や、発症時被害を最小限にするため、施環境整備や、職員の勉強会等を行っております。今後ノロウイルスやインフルエンザなどが流行する時期、正しい知識を身につけ同じ対応ができるように、月4回勉強会を予定しています。利用されている皆様が、安全で安心した生活が送れるように、委員一同努力していきたいと思ひます。

安全衛生委員会委員長 前川 幸子



職員全員で取り組んでいます

バルーンアート後、敬老会のメインイベント!! 「ベガ・ムジーク」による演奏会です。



ギター、ピアノ、フルートに琴まで普段なかなか見られない楽器も見ることができました



みなさん素晴らしい音色を楽しみました

リハビリ豆知識

今年最後のコラムになりました。

この1年間に書いてきましたコラムの内容を振り返ってみると、転倒予防、そのキーワード「ぬかづけ」、骨折、転倒アンケート結果の紹介、自身の運動機能を振りかえることによる注意喚起などがありました。一貫しているのは、「自分自身のことを見つめ、振り返って考える」ということでした。

最近、新聞で紹介され

た本についてスタッフと話しました。それは、

医療や介護場面における基本動作の援助方法を紹介した本で、その主旨は、「援助を受ける人の残存機能を見極め、把握する事によって個別の対応が可能である」というものでした。コラムで書いてきたつもりで見つめてみる”に通ずる話です。そして、考える”ことは、自分の体力や生活環境(ぬかづけ等)を維持改善すること



に対してのモチベーション向上のきっかけになるのではないのでしょうか?

秋風やあれも昔は美少年

小林一茶

今年のコラムは今年が最後です。皆さん、少し早いですが良いお年をお迎えください!

理学療法士 大西憲久
祥雲館

紙にこーろ 編集後記

秋は実りの時期、食べ物が大変美味しい時期です。しかし、農業を営む方には大変忙しい時期でもあります。田んぼでは米の収穫、畑では秋野菜、山では栗拾い。昔はこのあたりでも松茸が生えていたそうですが、今ではほとんど見る事がなくなったそうです。

この頃は、鹿や猪、アライグマなどが目立つようになり、網などを張って対応しているのを多く見られます。自分も畑などを手伝うようになってからは、作り手の苦勞を知るようになりました。なんといっても草刈りが一番の苦勞です。(東)

次回の発行は平成21年1月11日(日)です